

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大事業	051	文化施設管理運営事業			中事業	21	みくに龍翔館管理運営事業		
小事業	01	みくに龍翔館管理運営事業			02	みくに龍翔館展示事業			他 事業

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		みくに龍翔館
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	施設管理事業	
根拠法令	有	社会教育法、博物館法、文化振興基本法			
根拠例規	有	坂井市みくに龍翔館条例、同条例施行規則			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画、みくに龍翔館リニューアル基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
坂井市の歴史、自然及び文化についての関心を高め、健全な教育、学術および文化の発展に寄与するとともに、歴史的文化遺産を市民共有の財産として適正に収集、保管、展示し、これらの資料に関する調査及び活用を図る。

【事業の概要】

◆みくに龍翔館管理運営事業 本庁 26,620千円

- 賃金 臨時職員賃金（3名） 7,125千円
- 報償費 協力者・指導・有識者謝礼 659千円
- 旅費 特別旅費 240千円
- 需用費 消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費等 8,415千円
- 役務費 通信運搬費、手数料、保険料 852千円
- 委託料 施設管理委託料、燻蒸委託料等 8,456千円
- 使用料及び賃借料 事務機器借上料・山車借上料等 481千円
- 備品購入費 図書購入・展示用備品 374千円
- 負担金 県博物館協議会負担金等 10千円
- 公課費 自動車重量税 8千円

◆みくに龍翔館展示事業 本庁 156千円

- 報償費 指導謝礼 21千円
- 需用費 消耗品費、食糧費、印刷製本費 135千円

4.事業のコスト

(単位：千円)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費	26,776	27,794	26,258	△ 1,018
	人件費	30,122	27,691	20,477	2,431
	総事業費	56,898	55,485	46,735	1,413
人員	正職員	3.85 人	3.50 人	2.28 人	0.35 人
	臨時職員	2.40 人	2.40 人	2.70 人	0.00 人
	人員計	6.25 人	5.90 人	4.98 人	0.35 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	2,266	2,775	3,197	△ 509
	一般財源	54,632	52,710	43,538	1,922

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	みくに龍翔館来館者数（館外活動参加者等を含む）	人	目標	7,000	12,000	13,450	13,450	13,750
			実績		10,319	11,733	11,548	11,669
			達成率(%)	0.0	86.0	87.2	85.9	84.9
指標の説明								
指標	みくに龍翔館入館料等収入	千円	目標	2,770	3,000	4,077	4,577	4,187
			実績		2,266	2,776	3,197	2,927
			達成率(%)	0.0	75.5	68.1	69.8	69.9
指標の説明		みくに龍翔館入館料、教育費雑入（町誌頒布代、コピー代他）						
指標	新収蔵資料受入数	点	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000
			実績		566	116	334	1,000
			達成率(%)	0.0	56.6	11.6	33.4	50.0
指標の説明		整理・目録化した新収蔵資料の点数						
指標	リニューアル検討委員会開催数	回	目標	2.0	2	4	4	4
			実績		1	4	3	3
			達成率(%)	0.0	50.0	100.0	75.0	75.0
指標の説明								
指標に基づく評価		令和改元や市出身者の日本芸術院賞受賞を記念したタイムリーな企画展を実施し、豊かな風土に根差した文化を紹介することで、郷土への誇りと愛着を育む契機としました。収入減の理由としては、リニューアル準備として特別展を実施しなかったことと、新型コロナウイルス拡大の影響があげられます。						

6.事業に対する評価

<p>現状と課題</p>	<p>有効性に課題</p>		
<p>平成6年までは5～6万人の入館者を維持していましたが、その後は徐々に減少し、ここ数年では1～2万人に落ち込んでいます。合併前までは三国町内の全小学校が校外学習として利用していましたが、現在は学校利用も減ってきています。また、平成7年頃までは館報等を発行していましたが、発刊物の縮小により情報発信する機会が減少しました。さらに、資料の豊富さに対し人員体制が整わず調査研究が追いつかなくなり、市民へ成果の反映・還元が進んでいないのが現状です。常設展示が固定化されており、開館以降ほとんど更新されていないため、研究成果を踏まえた刷新が課題となっています。今後は、いつも新鮮で魅力的な常設展示が可能な施設とするとともに、観光客の誘客に向け新たな取り組みを行っていくことが重要です。</p>			
<p>成果と改善点</p>	<p>博物館施設として事業の目的を整理し、みくに龍翔館リニューアル基本計画を策定しました。基本理念「みせる つなげる はぐくむ」のもと、資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及、観光連携の5つの機能を導入することとしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆みくに龍翔館管理運営事業 全面改修工事を控え、施設の維持管理では、施設の経年劣化に対し復旧的措置を行いました。今年3月には登録博物館となりました。 ◆みくに龍翔館資料収集・保存事業 新収蔵資料566点の受け入れと資料登録を行い、燻蒸による殺虫・殺菌処理後、収蔵しました。 ◆みくに龍翔館調査研究事業 リニューアル後の新常設展示や運営に関する各種調査や視察を実施し、リニューアル設計の準備を行いました。 ◆みくに龍翔館展示および教育普及事業 坂井市出身の詩人荒川洋治氏の日本芸術院賞受賞を記念した2つの企画展を実施しました。令和改元に関連し、平成を振り返るミニ企画展も開催しました。 		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

<p>事業の方向性</p>	<p>継続</p>		
<p>方向性の理由</p>	<p>従来の博物館は、「資料の収集保管」「調査研究」「展示」の施設としての役割が中心であったが、ここ数年、博物館にも「観光・地域振興の拠点等、地域に開かれた役割を果たすことが期待」されています。みくに龍翔館は、令和2年11月から令和5年春（予定）のオープンまで休館とし、建築・設備と展示について全面改修工事を行います。その間、リニューアルオープン後の収蔵計画、教育機関や地域・観光と連携した事業運営計画なども同時に作成し、新しく求められている役割を果たせるよう博物館施設としての機能充実を図ります。</p>		

令和元年度事業分 事務事業評価シート

<事業の名称等>

予算	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	08	文化振興費
大	事業	051	文化施設管理運営事業	中	事業	26	ONOメモリアル管理運営事業		
小	事業								他 事業

3.旧総合戦略記載事項

旧総合戦略 記載事項	
---------------	--

1.事業の位置付け

旧総合計画	基本構想	7	生涯を通じて学び・育つまちづくり	所管部局	教育委員会事務局
	基本計画	7-4	歴史・文化・芸術の伝承と振興		みくに龍翔館
旧総合戦略	政策パッケージ				
	施策				
事業区分	自治事務（任意的なもの）		事業種別	施設管理事業	
根拠法令	有	社会教育法、博物館法、文化振興基本法			
根拠例規	有	坂井市ONOメモリアル条例、同条例施行規則			
関連計画・マニュアル	有	坂井市教育振興基本計画			

2.事業の目的・概要

【事業の目的】
故小野忠弘氏の住宅兼アトリエの保存・活用を図るとともに、市民の現代美術に関する感性と創作意欲の向上に寄与する。

【事業の概要】

- 報償費 97千円
 - 指導謝礼 20千円
 - 賞品 77千円
- 需用費 615千円
 - 消耗品費（施設管理用消耗品・大会行事用消耗品等） 58千円
 - 食糧費（ふるさと坂井絵画展審査時賄等） 1千円
 - 印刷製本費（賞状・ポスター・パンフレット印刷） 109千円
 - 光熱水費（電気料・水道料） 349千円
 - 修繕料（施設等修繕料） 98千円
- 役務費 87千円
 - 通信運搬料（郵便料、電話料） 78千円
 - 火災保険料 9千円
- 委託料 1,515千円
 - 施設管理委託料（警備保障、施設管理、樹木等管理等） 1,008千円
 - イベント事業委託料 507千円
- 工事請負費 130千円
 - 空調機取付工事費 130千円
 - 車両借上料（ビエンナーレ現地説明会時バス借上料）

4.事業のコスト

（単位：千円）

	令和元年度	平成30年度	平成29年度	元・30年度比	
コスト	事業費		3,638	2,155	△ 3,638
	人件費	10,465	10,767	5,461	△ 301
	総事業費	10,465	14,405	7,616	△ 3,939
人員	正職員	1.40 人	1.45 人	0.72 人	△ 0.05 人
	臨時職員	0.60 人	0.60 人	0.30 人	0.00 人
	人員計	2.00 人	2.05 人	1.02 人	△ 0.05 人
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0	0
	一般財源	10,465	14,405	7,616	△ 3,939

5. 事業の目標値と実績等

評価指標		単位	年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
指標	ONOメモリアル入館者数	人	目標	600	500	500	500	500
			実績		657	551	234	434
			達成率(%)	0.0	131.4	110.2	46.8	86.8
指標	指標の説明							
指標	企画展の回数 （主催事業及び後援事業）	回	目標	2	1	2	1	2
			実績		1	3	1	2
			達成率(%)	0.0	100.0	150.0	100.0	100.0
指標	指標の説明							
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標	指標の説明							
指標			目標					
			実績					
			達成率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
指標	指標の説明							
指標に基づく評価	大湊神社宮司松村忠祀氏を偲ぶ新常設展と企画展の開催や、中学校・高校による団体利用があったことから、入館者が増えました。							

6.事業に対する評価

	効率性に課題	有効性に課題	
現状と課題	現在、ONOメモリアルは、現代美術等の企画・育成事業による稼働率も低く、十分に活用されているとはいえない状況です。今後も引き続き、より柔軟で効率的な管理運営を図るよう検討していきます。		
成果と改善点	アーティスト戸田正寿氏により2年ぶりにリニューアルした常設展を継続しました。小野忠弘・松村忠祀が愛した雄島の林と夕焼けを表現した作品に、県内外から多くの来館者が訪れました。 例年開催している「こどもが描く“ふるさと坂井”絵画展」に関して、市民からの要望等をふまえ、特別賞を除いた入選作品を返却しています。 隔年開催の高校生現代アートビエンナーレについて、今後の活動の後押しとするため、クリエイティブな分野へ進んだ過去参加者に取材し特集記事を作成しました。		

7.令和2年度から令和6年度間（第2次総合計画前期期間）の方向性

事業の方向性	継続
方向性の理由	<p>世界では現代アートに対する興味・関心が高まっており、美術館やビエンナーレなどによるまちづくりも増えてきています。</p> <p>◆小野作品の公開 世界的な現代美術作家小野忠弘の作品と氏が愛した窓からの景色が見れることから、小さなギャラリーでありながら県内外問わず安定した入館者数があり、リピーターもいます。今後も継続して作品の公開を行い、さらに多くの人に知ってもらうことが必要です。</p> <p>◆高校生現代アートビエンナーレ 芸術分野で活動する若者の育成は、ONOメモリアル事業の大きな役割です。ビエンナーレは、神社・寺・城など歴史的景観の中で現代アート作品を制作する日本でも類をみない美術展であり、過去の参加者が多岐にわたる分野で活躍しており成果が出てきているため、事業内容の充実を図りながら継続していきます。</p>